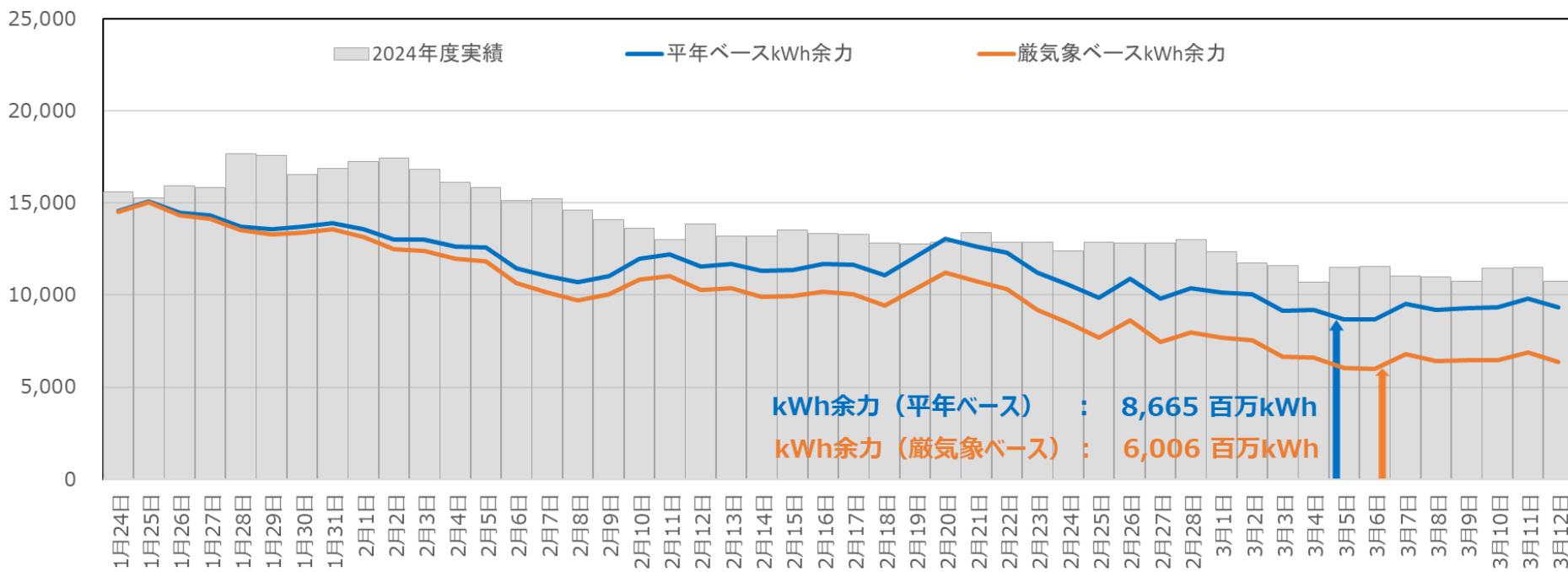


kWhモニタリング（対象期間:1/24～3/12）の結果

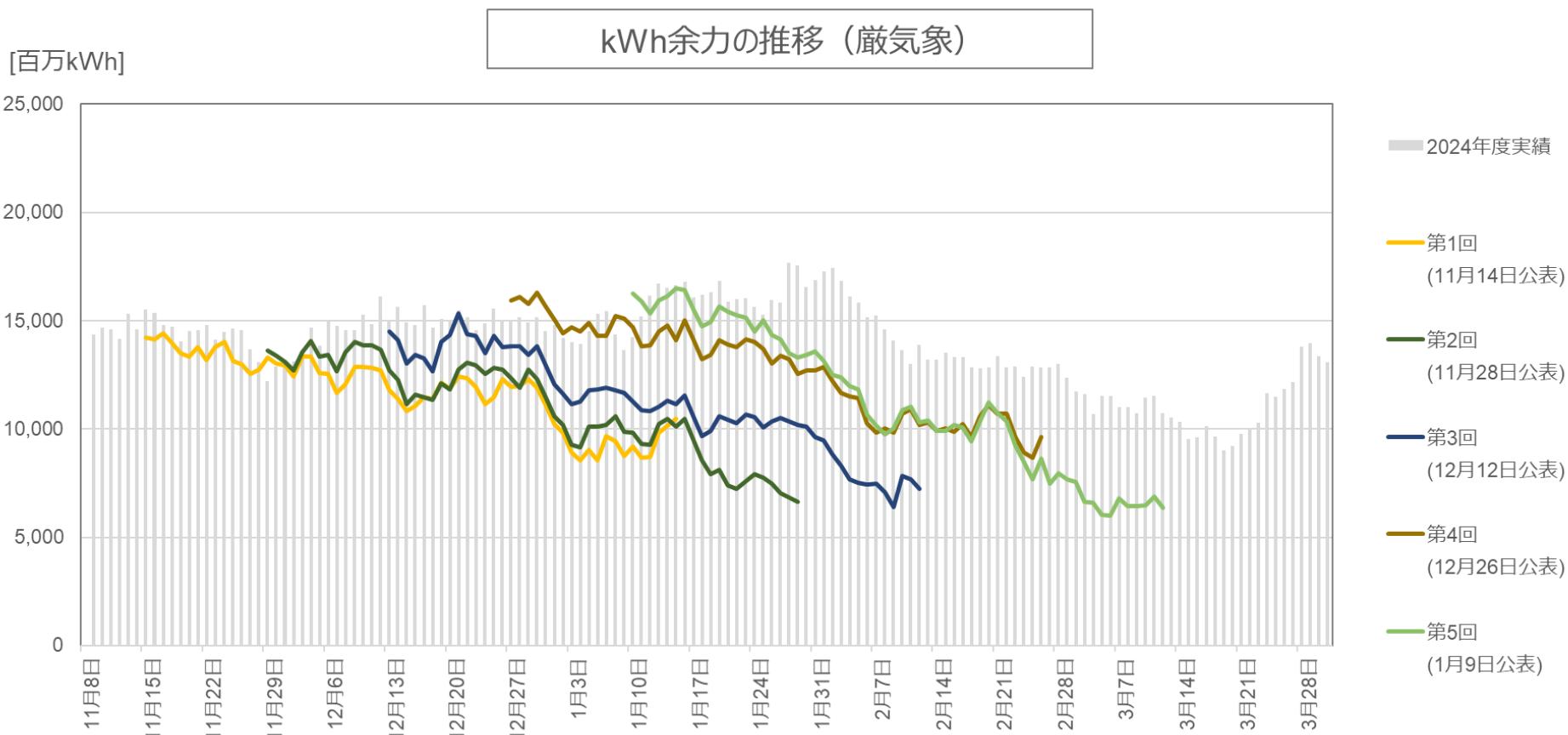
- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は3月5日に最小となる見込み。その値は**8,665百万kWh**であり、これは、対象期間の平均電力消費量の約3日分に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は、3月6日に**6,006百万kWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の約2日分に相当。
- 前回から傾向に大きな変化はなく、現時点で燃料在庫の観点からはひつ迫の恐れはないが、需要の増加や、原発・石炭発電等のベースロード電源の計画外停止によって状況が変化する可能性があり、今後も動向を注視していく。

[百万kWh]



kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

- 前回（第4回）のkWh余力（厳気象ベース）と、概ね同じ傾向で推移。



注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、
厳気象を想定した推移ではない